

もっと豊かに暮らしたい

G-NET じーねっと **しが**

滋賀県
男女共同参画
情報誌
vol.28
2015 春号

特集

「若者の“はたらく”を考える」



特集 若者の“はたらく”を考える

「男女共同参画社会」と「若者」

男女共同参画社会基本法に基づく基本計画として、平成22年12月17日に閣議決定された「第3次男女共同参画基本計画」では、15の重点分野を掲げ、それぞれについて、平成32年(2020年)までを見通した施策の基本的方向性と平成27年(2015年)度末までに実施する具体的施策の内容を示しています。その重点分野の中の一つに「貧困など生活上の困難に直面する男女への支援」が掲げられており、若年期における自立支援の充実や様々な生活上の困難に直面する人々に対する支援を進めるとしています。

また、国立女性教育会館では、平成25年度に「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究」を実施し、若者の社会的・職業的自立支援策について取りまとめました。

その後、「平成26年度版 男女共同参画白書」では、「変わりゆく男性の仕事と暮らし」が特集され、同白書で初めて「男性」がテーマとなりました。その中で、男性の雇用については、非正規雇用が若い世代ほどその割合が高くなっていると述べています。

こうした状況の中で、平成26年度の「さんかく塾 課題対応編」第3回講座は、若者の労働問題を取り上げ、甲南大学准教授の阿部 真大さんを講師に招いて、「今、若者の“はたらく”を考える ～若者の就職難と貧困をみんなで考える～」をテーマに開催しました。

本号では、このさんかく塾での阿部さんのご講演のポイントをご紹介します。

若年労働問題とは

「若者の労働問題」は、高度経済成長の中で忘れられてきました。確かに、1980年代まで若い世代には仕事がありました。

しかし、1990年代に入り、バブル経済が崩壊し、日本経済が低成長となり、就職氷河期という言葉が生まれるほどの就職難の時代になりました。この時代に学校を卒業し、就職活動をした世代は「ロストジェネレーション」と呼ばれています。普通に就職できると思っていたのができなかった彼らは、大学卒業後2.3年は非正規雇用で頑張るのですが、事業の合理化・効率化を図るため終身雇用制度を取りやめる企業が増えたことから、ますます正規雇用が難しくなりました。しかし、世間からは、「若者自身が怠けている」と思われていました。世間は、整理解雇された中高年には同情を寄せましたが、最初から正規雇用

されていない若者は問題視されませんでした。就職できない若者に無関心だったのです。

若年労働問題とは、若者が既存の正規雇用体系の中に位置づけられなくなったために生じる相対的な格差の問題と捉えられます。



さんかく塾 課題対応編 第3回

多様性に対応する就労の場とは

産業構造の転換で、海外に工場が移り、今まで「主婦」が多かった職場でも若い男性が働くようになりまし。雇用形態が多様化するに伴い、職場の人間関係や雰囲気にも馴染めずになかなか働けない若者が増えました。

一方、外国はというと、例えば、アメリカでは、職場でも多様な人材への対応が整っています。アメリカのある企業は、分厚いマニュアルを作っています。その理由は、様々な人が働けるようになるためです。従業員同士の行き違いなどが頻繁にあっては会社が回らなくなるので、一人一人の従業員用にマニュアルを作って、その通りに仕事をすることで職場の中でコミュニケーションをとらなく

てもスムーズにいくようにしているというのです。

今の若者にとって働きやすい職場とは、どのようなところなのでしょう。働く上で困難を抱えた若者をどう支援していくかがこれからの課題です。



ワークショップ風景

若者の幸福度

2014年に入り、労働市場は人手不足の状態となり、若い世代の就職率も上がってきました。しかし、雇用形態の違いを問わず、低賃金で長時間労働が深刻な状況は変わっていません。

幸福か不幸かは統計では扱いにくいので、社会学者は、実際にどれだけ深刻な状況になっているのかを自殺件数で計ることが多くあります。自殺の原因や動機が勤務問題である人が増えています。それだけ日本の労働現場が厳しい状況にあると言えます。

資源を持つ国は長時間労働をしなくてもよいが、ものづくり国は長時間労働となる傾向があるとも言われます。さらに、日本は長時間労働を美德とする風潮があります。短い時間で成果を上げるように見直していくことが必要です。

1960年代は、新・三種の神器と呼ばれたカラーテレビ・クーラー・自動車を所有したい、そしてマイホームを持ちたいというような、物を所有することが幸福度を測る基準でした。しかし、1990年代の就職難時代に就職活動をした世代「ロストジェネレーション」の次にくる世代は、がたがた稼ぐことが幸せという

高度経済成長期的なライフスタイルにこだわらない傾向があります。

例えば、介護現場で働いている若者の中には、平気で残業をする人もいます。その理由は、「利用者に喜ばれるから」「やりがいがあるから」といったものです。若い人には「やりがい」という労働者文化があるのではないかと考えられます。

また、バブル以降、工場用地がいらなくなり、法改正で商業地に大型店舗が進出しやすくなり、余暇を楽しむ環境が地方都市にも整ってきました。大型ショッピングモールの出店やインターネットの浸透により、地方都市で暮らしたいと考える若者も多くなりました。



『働かすぎる若者たち「自分探し」の果てに』

若者が元気な国に

2000年代に入ると、「ニート」や「ひきこもり」などが社会問題となり、若者が社会的弱者として見られるようになりました。職に就かず、親の家に住み続けることは若者の「自立」を阻害する要因となっています。しかし、一方で、日本文化の特長とも言えるのですが、成人した子どもが親と同居することは、親孝行と考えられており、親も子どもが同居してくれることを期待しているところもあります。また、自分自身の収入が低くても親と同居していることで生活が成り立ち、若者の幸福度は高くなっています。このような若者に対しては、親から自立できる就労支援が必要ではないでしょうか。

今、社会への不安を抱えている若者が増えています。物質的に豊かな社会になるほど、コミュニティに属する必要性が低くなります。その結果、世間知らずの

若者が増えたり、コミュニケーション力がなくなっていくのは、国際的な傾向です。家族や地域社会がゆらぎ始めているからかもしれません。

一方で、若者の中で社会を変えることを仕事にする「社会起業家」が増えてきています。また、シングルマザーのルームシェアなども増えてきています。若者のつくる新しいコミュニティの形態が生まれつつあると言えます。

しかしながら、こうした若者の労働や貧困にかかわる問題は、当事者である若者だけの問題ではなく、こうした社会状況を生み出している大人たちの問題でもあり、社会全体で考えるべき問題であるということをお忘れはいけません。

☆ 講師の紹介 ☆

阿部 真大 (あべ まさひろ) さん

1976年岐阜県岐阜市生まれ。東京大学卒。社会学者。甲南大学准教授。

専門は労働社会学、家族社会学、社会調査論。

ポスト日本型福祉社会におけるセーフティネットのあり方について社会学的な見地から研究。

<主な著書>

『働かすぎる若者たち「自分探し」の果てに』(NHK出版)

『搾取される若者たち「バイク便ライダー」は見た!』(集英社)

『居場所の社会学—生きづらさを超えて』(日本経済新聞出版社)

『地方にこもる若者たち—都会と田舎の間に出現した新しい社会』(朝日新聞出版社)

G-NETしが推進員とは…

滋賀県立男女共同参画センターの講座修了生などで、地域の男女共同参画の推進に関わるリーダーです。

こんにちは、G-NETしが推進員です！

今回は、長浜市の「イクメン講座」を紹介します。

長浜市では、父親と子どもと一緒に参加する「イクメン講座」を開催しています。この「イクメン講座」は、長浜市人権施策推進課と生涯学習・文化スポーツ課、そして、市立長浜図書館の連携による連続講座で、平成23年度に開催されたところ、大変好評であったので、以降、毎年度実施されています。

平成26年度の第1回は、「絵本作家のぶみさんとあそぼう！ワークショップ」と題して、絵本作家「のぶみ」と一緒に、普段の生活では体験できないような、お絵かきや紙あそびを思う存分楽しみました。

講師の「のぶみ」さんは、NHK教育テレビ「みいつけた！」の「おててえほん」のアニメーション制作に携わっておられたり、160冊以上の絵本作品や「パパは、絵本作家」(PHP研究所)などを書いておられます。



絵本作家のぶみさんとあそぼう！
ワークショップ

第2回は、「親子体操で楽しくコミュニケーション」と題して、親子で気持ち良く体を動かし、子どもとのスキンシップを楽しみました。講師の徳田隆子さんは、ぎこちなく子どもと体操する父親に、子どもが安全に安心して体を動かせるようにサポートするコツを教えておられました。お父さんたちは、スキンシップの重要性を再認識しておられる様子でした。

参加された方は、「子どもとコミュニケーションが図れた。」「子どももとても楽しそうだった。」「家でも簡単にできる内容で良かった。」など、

満足されている様子でした。

さらに、体を動かした後は、「男女さんかくチェックシート」を使って、長浜市人権施策推進課の職員さんによる男女共同参画を考えるミニ講座もありました。



お父さんと一緒に体操

第3回は、「お父さんとつくるスイーツ」で、地域の健康推進員の方を講師に、家庭でも作れる本格スイーツづくり体験でした。日ごろ、台所に立つ機会の少ないお父さんと子どもたちが一緒にケーキ・サレ(塩ケーキ)をつくり食べることで、みんな笑顔になりました。親と子の共同作業を通じて、さらに絆が深まる様子でした。

また、最後に、長浜市人権施策推進課の職員さんによる「男女共同さんかくクイズ」で、男女共同参画を家族で考える機会とされていました。



お父さんとケーキづくり

「G-NETしが」とは…

滋賀県立男女共同参画センターの愛称で、「Gender-Networkしが」の略。ジェンダー問題を見据えて、男女共同参画のネットワークを広げていこうという思いをこめたものです。

滋賀県男女共同参画課のプロジェクトを紹介します

滋賀県発！

未来のわたしキセカエプロジェクト

固定的な性別役割分担意識にとらわれることなく、多様なスタイルの中から自分の生き方や働き方を自分自身で選択していけるよう、社会に出る前の段階で将来のビジョンを描くことが重要となっています。

そこで滋賀県では、学生のみなさんが、インタビューや企業訪問などの体験を通じて、自らのキャリアとライフの選択を考える、学生による学生のための「人生シミュレーションツール」を開発し、発信する『滋賀県発！未来のわたしキセカエプロジェクト』を実施しました。

人生シミュレーション ツールができるまで

このプロジェクトに参加したメンバーは、県内在住か県内の大学に通う大学生9人。大学生が親世代と同じ年齢になったとき、生き方や働き方は大きく変化しているかもしれません。

先行き不透明な未来を生き抜くためにどんな備えが必要かを考えるため、30年後の社会の変化について学び、様々な年代や職業の人にインタビューを実施。育児休業を取得した経験のある男性の家庭へ訪問し、育児体験など家族との交流を行ったメンバーもいました。

そうした体験をふまえ、現在から30年後までを生きる人々の未来シナリオを検討し、8人のキャラクターとそれぞれの人生のストーリーを創作。それをもとに、プロの手によりスマートフォンやタブレット端末で利用できるゲーム感覚の人生シミュレーションツール「未来クエスト@滋賀」ができました。結婚、子育て、転職などの人生の転機にどんな判断をするかでその後の人生が変化する内容となっています。

参加したメンバーは、プロジェクトを通じて、社会の変化が人生に大きく影響すること、人生には想像もしないことが起きることなどを理解するとともに、変化に対応しながら自分の意志で人生を選び取ることの大切さを実感しました。

1 過去・現在・未来を知る

2 さまざまな働き方を知る

3 ライフ・ワークスタイルの未来を発想する

4 シナリオに登場するキャラクターを設定する

5 ライフ・ワークスタイルの未来を踏まえて未来シナリオを執筆する

6 シナリオに登場するキャラクターを設定する



女性キャラクターを、やりたい仕事に常に全力を注ぎたい「バリキャリア志向」、安定して長く働きたい「安定型ゆるキャラ志向」、プライベートの状況によって、必要に応じて働きたい「マイペース型ゆるキャラ志向」、仕事より家庭第一、結婚したら家族のために家を守りたい「専業主婦志向」の4つとし、それぞれに対応した男性キャラクターを設定。



「未来クエスト@滋賀」はスマートフォンまたはタブレット端末で体験いただけます。左の二次元バーコードまたは下記アドレスから、ご覧ください。

<http://game.hanalabs.net/>

滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが)事業のご案内

★男女共同参画相談室★

無料相談

「女だから…男だから…」と差別された、パートナーや恋人からの暴力、夫婦間の問題、セクハラ・パワハラなど、一人で悩まないで、まずは、お電話ください。

【相談専用電話】 0748-37-8739

秘密は
厳守します。

◆総合相談（電話・面接・カウンセリング）◆

火・水・金・土・日曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
木曜日 9:00～12:00 17:00～20:30

◆法律相談◆（要予約）

◆DVカウンセリング◆（要予約） ※無料託児有り(7日前までに要予約)

★女性のためのチャレンジ相談★

無料相談

専門の相談員が、起業やキャリアアップ、NPO活動など、チャレンジしたい女性へのアドバイスや情報提供などを行います。

お電話でご予約ください。0748-37-3751（要予約）

※無料託児有り(7日前までに要予約)

★滋賀マザーズジョブステーション(近江八幡)★

無料相談
託児無料

※滋賀県立男女共同参画センター内にあります。

専門のカウンセラーによる個別相談やアドバイス、仕事と子育てを両立するための保育等の情報、就職ナビゲーターによる求人情報の提供や職業紹介の他、託児もありますので、ぜひお気軽にご利用ください。

◆総合受付 0748-36-1831

◆利用時間 9:00～17:00（受付 16:00まで）

※祝日も相談できます。（ハローワークを除く。）

○滋賀マザーズジョブステーションは、JR草津駅前にもありますので、そちらもご利用ください。

★滋賀マザーズジョブステーション(草津駅前)★

無料相談
託児無料

◆場 所 草津市大路1-1-1

エルティ932・ガーデンシティ草津 3階

◆総合受付 077-598-1480

◆利用時間 9:00～17:00（受付 16:00まで）

◆休 所 日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

★G-NETシネマ★

参加無料

～毎月1回上映しています～

詳しい内容はホームページで！

◎小学生低学年以下は保護者同伴でお願いします。

※無料託児有り(7日前までに要予約)

★図書・資料室から★

～テーマ「若者の働き方」～

『日本型ワーキングプアの本質
～多様性を包み込み活かす社会へ～』

大沢 真知子

【著】岩波書店 2010年

非正規社員とは世帯主に扶養されている労働者だという前提で導入されたさまざまな社会制度が、非正規労働者の賃金を下げている。多様な労働者を包み込む社会制度の確立のための道を探求する。



『ワーキングプア -日本を蝕む病-』

NHKスペシャル

『ワーキングプア』取材班

【編】ポプラ社 2007年

日本各地で、「豊かさ」のすぐ「隣」に、「新たな貧困」が生まれ、深く進行していた。NHKスペシャル『ワーキングプア』の取材班がテレビでは放送しきれなかった詳細を書籍化。



『ルポ 雇用劣化不況』

竹信 三恵子

【著】岩波新書 2009年

不況を大幅な人件費削減で乗り切ろうとする企業。過酷な労働と不安定な生活を強いられる非正規社員、目先のノルマに追われる正社員。「貧困ジャーナリズム大賞'09」の著者が労働現場の実態を追う。



図書・資料室の利用案内

“G-NETしが”の図書・資料室には、多くの書籍・資料をご用意しております。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

■貸 出 本は一人15冊まで（3週間）
ビデオは一人2本まで（1週間）

■開室時間 午前9:00～午後5:00

■休 室 日 月曜日(祝休日除く)
祝休日の翌日・年末年始・施設点検日

G-NETしが

滋賀県男女共同参画情報誌
VOL.28 2015年 春号

発行日/平成27年3月

編集・発行/滋賀県立男女共同参画センター
〒523-0891

滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4

TEL 0748-37-3751

FAX 0748-37-5770

E-mail ct30@pref.shiga.lg.jp

H P http://www.pref.shiga.lg.jp/c/g-net/

【開所時間】午前9時～午後9時

【休 所 日】月曜日(祝休日除く)・祝休日の翌日
年末・年始・施設点検日



JR近江八幡駅下車南口より500m（徒歩10分）
またはJR近江八幡駅南口から近江バス
「男女共同参画センター前」下車